



移住者名	近藤 真一郎
都道府県	岡山県笠岡市真鍋島
移住先	兵庫県神戸市⇒真鍋島
移住年	2007年
職業	団体職員⇒配色サービス、ゲストハウス、 カフェ経営
家族構成	夫婦2人、子4人
移住形態	1ターン

Q. 移住したきっかけは？

理由は色々とありましたが、暮らしと子育ての環境を変えたいという思いから、もともと願望もあった田舎暮らしを模索し始めました。家族連れ、新天地で心機一転ということですから、やはり候補地選びにはかなり慎重でした。主にネットで移住先を探していましたが、画面上での好感度は高くてもいざコンタクトを取ると違和感を感じる事が多く、要するに行政主導な促進という印象が拭えないケースが多くありました。なかなか定まらないなか、「来る人を選ぶ」という過激とも言える本気度を感じた真鍋島に出会い、すぐに下見を決めたのです。

当初は島に住むなんて発想すらありませんでしたが、大震災の経験からも土地的な安全度の高さは魅力的でしたし、場所もさることながら下見に訪れたときに触れた島の人々の温かさに何より惹かれました。

島民が受け入れに直接関わっていたことで、移住先として距離の近さと縁を感じられたことが決め手になりました。

Q. 移住の際不安に思ったことは？

人に惹かれて決めたものの、島に住むということがどういう生活を意味しているのかその時はまだいまいちピンと来ておらず、分からないことが何なのか分からないという状態でした。今となっては笑い話ですが、移住を決めた後になってカーフェリーも来ないところでどうやって引っ越しの荷物を運ぶんだらうとか、引っ越してから買い物ってどうやって行けばいいんだらうとか、これまでの生活では考え及びもしなかったことが住んでみて初めて次々と湧いてくる最初の頃は本当に不安でした。

相談するのが一番の近道だということを知ってからは、相談すればどうにかなるだろうでどうにかなっていきました。お金で解決するということではなく、自分たちも地域の活動や個人的なお手伝いにも積極的に出向き、持ちつ持たれつの関係というか、損得勘定なく互いに動きあうことで共存しているのだと知りました。といってもまだまだ持ってもらってばかりですが（笑）。



Q. 移住して良かったことは？

移住してその後、当時の1ターンの取り組みは次第に下火になり、10年が経つ頃まで次の安定的な移住者はついに現れませんでした。地域が担い手不足に関して本当に危機的な状況を迎えたことで、私たちもいよいよ覚悟を決めて本気で真鍋島の未来に向き合わなければいけないと思い、起業を決意できたことはさらなる加速度的な過疎の進行があったからかもしれません。定住人口だけでなくまずは関係人口の増加を図ることによって島を活性化する。そのための事業をいくつか起こしたことによって、自分たち自身も実に多種多様な方々とつながることができ、真鍋島での暮らしが本当の意味で充実したものになっています。

同時に島の方とのつながりもより濃密になり、たくさんの方が励まし応援して下さることは大変嬉しいことですし、頼りにして頂けることは何より生き甲斐になります。

神戸に暮らしていたら間違いなくできなかったであろう貴重な経験です。

Q. 移住を考えている方へメッセージ

移住した以上ずっとそこで頑張らなくてはいけません。

移住当時から今もそう思っています。でも、それは私たちの事情や地域との相性などで、私たちはたまたまうまくいっているに過ぎません。

合わない相性も存在しますし、田舎だからいい人ばかりだとは限りません。悪縁に遭うことも珍しくないでしょう。だから頑張るのはずっとでなくても良いと思います。何をしたいとか、どう役に立ちたいとか、そんなことはそのうち答えが見つければ良いのであって、移住にそんな手土産は必要ないと思うのです。あなたが移住に目を向けているのであれば、そのことだけで大きな人生の発見です。縁を感じたらそこに居る、感じなかったら次に行くくらいの心構えで臨めばいいと思います。

ただ、人と向き合う、自分が求めている人生と向き合うということだけは常に真正面から臨んでください。人の役に立てたという喜びを感じることができたら移住の半分はうまくいったも同然です。